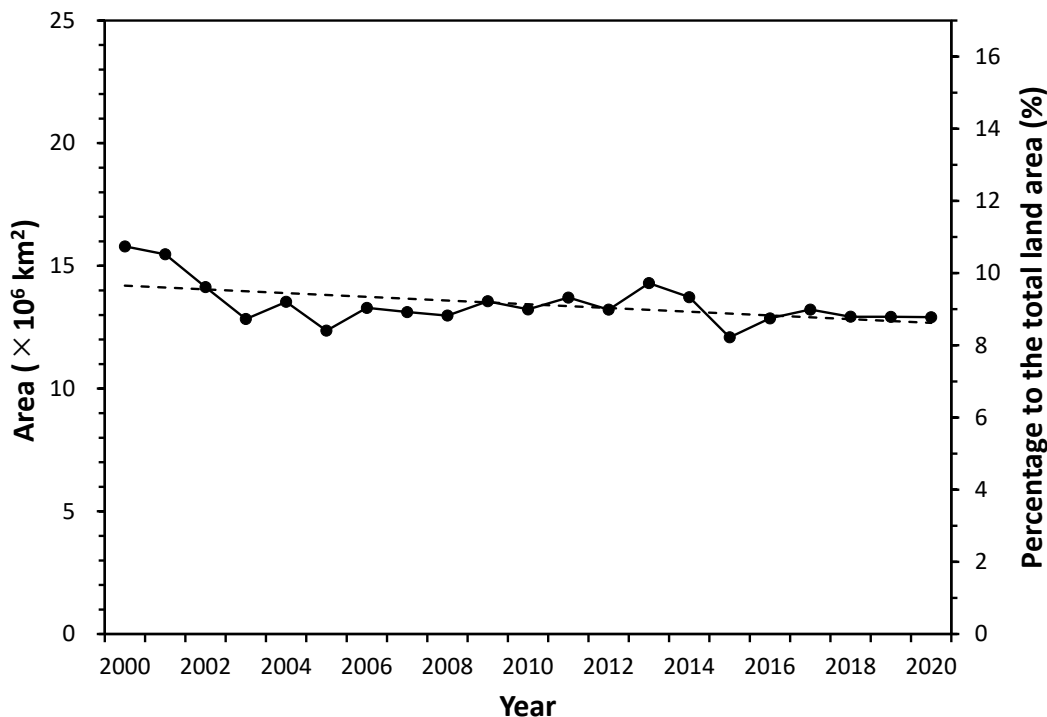


全球を対象にした2000年以降の荒廃地（＝風食的砂漠化）の面積および割合の推移 （2000～2020）

Annual changes of areas of global degraded land (=aeolian desertification)



- 植生量と地表面の湿潤度がある閾値未満になると風食の起こりやすい土地と定義し、荒廃地としています。
- 2000年以降、荒廃地の面積は減少傾向にあり、平均は $13.4 \times 10^6 \text{ km}^2$ (9.1%)で、最高値と最低値の差は $4 \times 10^6 \text{ km}^2$ です。
- 年に 71429 km^2 の割合で減少しており、その値は東北地方と北海道の面積の中間ほどになります。はっきりとしたことは言えませんが、最近5年間では下げ止まりの兆候が見られます。

(参考) Kimura, R. and Moriyama, M. (2019): Determination by MODIS satellite-based methods of recent global trends in land surface aridity and degradation. J. Agric. Meteorol, 75(3), 153-159.